

大阪府の気象概況について

大阪府総務部統計課 情報・分析グループ

《 詳細は大阪管区気象台ホームページに掲載しています。 <http://www.jma-net.go.jp/osaka/kikou/osaka-kishou.html> 》

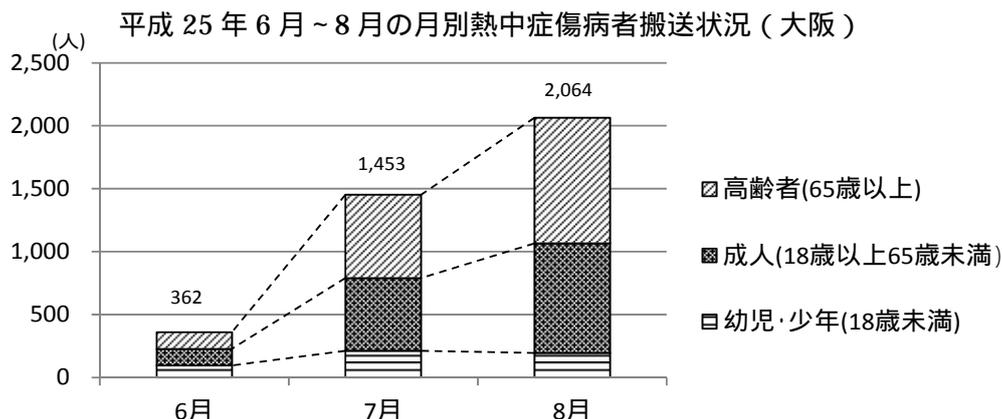
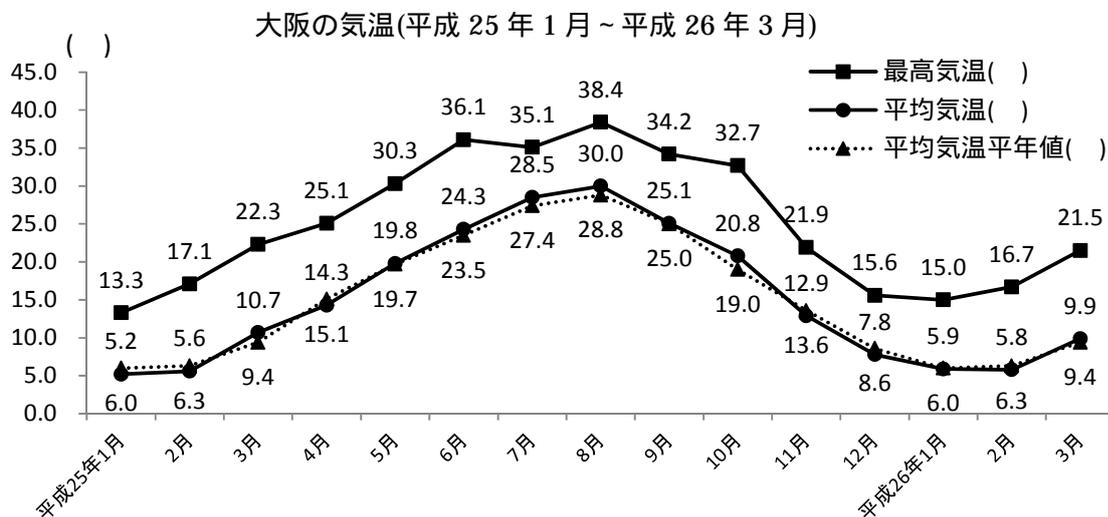
大阪管区気象台が府内の気象概況を「大阪府の気象」(平成25年(2013年)年報)としてまとめております。その中から、気温と降水量に関する概況について紹介します。

1 気温の推移

- 冬は寒く、夏は暑く、10月は記録的な高温に -

25年1～2月は冬型の気圧配置が多かったため気温は平年より低くなりました。夏は、太平洋高気圧とチベット高気圧の勢力が高かったため、6月から8月にかけての平均気温は平年に比べて、0.8～1.2 高くなっており、8月には、大阪の猛暑日(日最高気温35 以上の日)の継続日数が17日となり、1920年の統計開始以来最長となりました。秋から冬では10月上旬に高気圧に覆われ、大阪の10月の真夏日(日最高気温30 以上の日)日数が統計開始以来最多の5日となりました。11月中旬以降は冬型の気圧配置となることが多く、11月と12月の月平均気温は低くなりました。気温についての気象記録は、日最高気温25 以上の日数が153日(統計開始以来4位)、日最高気温30 以上が88日(同2位)、日最高気温35 以上が23日(同5位)となっています。

また、6月から8月にかけての熱中症による救急搬送者の数が増加しており、そのうち高齢者の占める割合が37%から48%となっています。



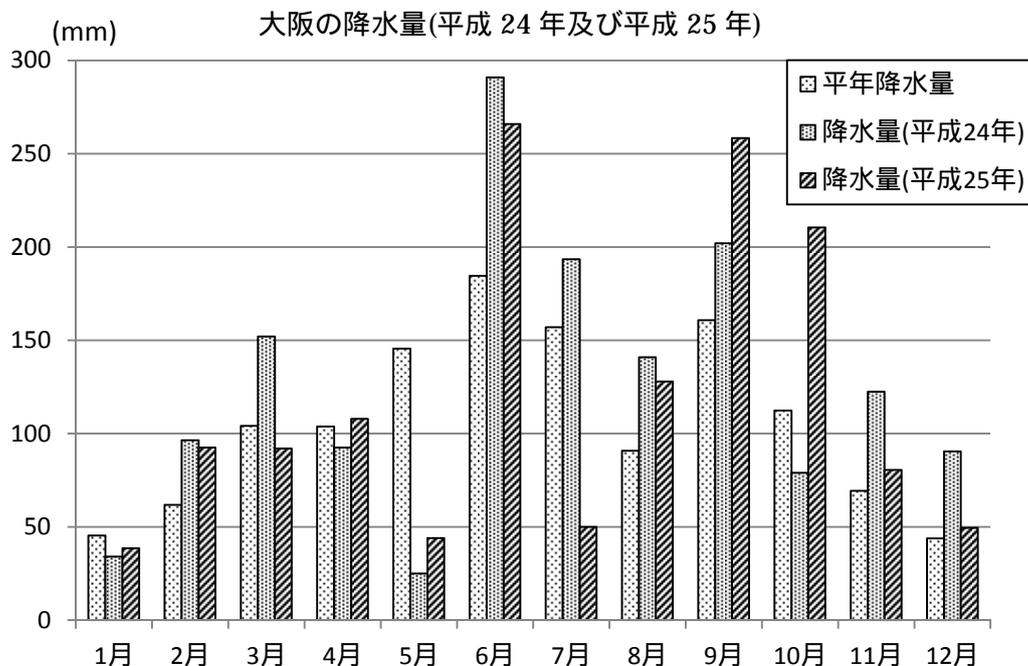
消防庁【熱中症傷病者搬送状況】

2 降水量の推移

- 梅雨入りは平年より早く、9月と10月は台風の影響を受け大雨に -

近畿地方は5月27日頃（平年：6月7日頃）に梅雨入りし、7月8日頃（平年：7月21日頃）に梅雨明けしました。月別では、2月、6月、8月～10月が平年より降水量が多く、5月及び7月は平年より降水量が少なくなりました。

また、局地的な雷雨となる日も多く、台風および大雨による災害が発生しました。



大雨による主な気象災害(平成25年)

| 期間 | 府内の現象 | 気象概況 |
|---------------|---------------------|--|
| 6月26日 | 大雨 | 西日本に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が近畿地方を通過したため、大阪府では26日未明から雨が降り、日中を中心に大雨となり、交通機関に影響がでました。 |
| 8月5日 ～6日 | 大雨 強雨 | 暖かく湿った空気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、局地的に雷を伴って非常に激しい雨が降り、床下浸水の被害がありました。 |
| 8月23日 | 強雨 雷 | 西日本に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となりました。大阪府内では床上・床下浸水と停電の被害がありました。 |
| 8月24日 ～25日 | 大雨 強雨 雷 | 西日本に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となりました。大阪府内では、床上浸水(44棟)、床下浸水(631棟)、土砂災害や道路の冠水等の被害があり、交通機関にも大きな影響がありました。 |
| 9月15日 ～16日 | 大雨 強雨 強風 雷 | 大型で強い台風第18号(15日21時で中心気圧960hPa、最大風速35m/s)を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため、大雨となりました。大阪府内では、負傷者2人、住宅の一部損壊(10棟)、床上浸水(10棟)、床下浸水(200棟)の被害がありました。また、はん濫注意水位を超えた河川は、淀川(淀川水系)、石川(大和川水系)でした。 全国的にも日本海から北日本にのびる前線の影響や台風周辺から流れ込む湿った空気の影響、台風に伴う雨雲の影響で、四国地方から北海道にかけての広い範囲で大雨の被害があり、竜巻も発生しました。 |